

岡谷市教職員研修会(2022. 7. 28) 松木健一先生のご講演の概要

1 はじめに — 「肥満」の話 — (p 1)

- 体重を減らすことのよさ
 - ・ 健康にいい … 肥満は様々な病気を引き起こす
 - ・ 地球環境に優しい … CO₂の削減・食料不足

2 体重を減らすことは難しい — 分かっちゃいるけど変えられない生活習慣 — (p 2～)

- 体重を減らすことの難しさ
 - * これまでの生活習慣そのものを見直さなくては体重を減らすことはできない
 - ・ 安易な解決策 … 長続きしない
 - ・ 一挙に痩せようとしても … リバウンドしてしまう
- 痩せるためには必要な5つこと
 - ① 適度な運動 … 栄養を摂るだけでなく燃焼させる(「使う」ということセットで)
 - ② バランスの取れた栄養 … バランスの良い食事
 - ③ 規則正しい生活 … 自分の身体との対話
 - ④ ストレスの少ない生活 … 生活を楽しむこと
 - ⑤ 仲間がいること … 励まし合い・相互調整・省察
- 分かっているのだけれど変えられない状況

3 「体重を減らす試み」と「学習観の転換」(p 3～)

- 体重を減らす試みとよく似た学校の課題「学習観の転換」(教える学習から学ぶ学習へ)
- 学習観の転換(指導伝達型の一斉授業から学習者中心の授業へ)は必須
 - ・ Society5.0に適合(AIに打ち勝つ)できる
 - ・ 主体的でやる気のある子どもに育てることができる
- 新しい学習指導要領の構造
 - ・ これまでは「知識・技能」が大きな比重を占めていた ⇒ コンピテンシー(「思考力・判断力・表現力」、「人間性・学びに向かう力」をより重要視
 - ・ 「人間性・学びに向かう力」が基盤

4 「学習活動の構造」 — 教師は「教える専門家」から「学びの専門家」へ — (p 4～)

- 「知識の習得」と「コンピテンシーの育成」(思考力・判断力・表現力、人間性・学びに向かう力)
 - ・ 知識の習得 … カバン(記憶装置)にたくさんの知識を詰め込む(子ども自身は変わらない)
 - ・ コンピテンシーの育成 … その場の状況をどうやって判断し、他者と自分のとの関係を結びつけた解決策を考えることができるかを問われている(世界で求められている学力観)
- 今新しく教師の専門性として求められていること
 - ・ これまでの「教える専門家」から、「学びを組織する専門家」「学びのファシリテーター」「学びの専門家」へ

5 学習観の転換も難しい — 求められる「教師のアイデンティティ」の見直し — (p 6～)

- 「言葉では分かっているけれど、どうしたらいいだろうか」悩みをもっている先生
- 学習観の転換の難しさ(体重を減らすことと同じことが起きている)
 - ・ 学習観の転換 = 無意識の授業スタイルそのものを見直すこと(体重を減らす取組と同じ)
 - * 教師のアイデンティティの見直さなくては学習観の転換はできない
 - ・ How to 的な解決策 … 長続きしない
 - ・ 一挙に学習観を変えようとしても … リバウンドしてしまう

6 では、どうすれば「学習観の転換」ができるのか (p 8～)

- 学習観の転換のために必要な5つのこと

- ① 「覚える」だけでなく「創り出す」
- ② バランスのよい学習活動に
- ③ 子どもとの対話 「子どもの文脈」を大切にする
- ④ 教師が授業での探究を楽しむ
- ⑤ 話し合える仲間がいる

7 教えるのではなく一緒に創り出す (p 8～)

- 「アンパンマンのキャラクターを覚える男の子と母親のやりとり」と「お母さんと一緒に手遊び歌で身体を動かす男の子」の姿から … 学校の中でも起きていること
 - ・ 学習活動は「入れる活動(覚える活動)」だけでなく、「外に出す活動」が交互にやってくるから発展する

8 多様な学習活動をバランスよく取り入れる (p 10～)

- 学習活動は覚えることだけではない
 - ・ 「計画を立てる」「段取りを組める」「アイデアを出せる」「判断する」「合意をつくる」等
- テストで目に見える「覚える」だけでなく、様々な評価をもって授業をしていく

9 子どもの文脈を大切にする (p 10～)

- 毎日の忙しさから「教師の文脈」だけで授業を進めるのではなく、「子どもの文脈」で考えてみる
 - ・ 「今日は〇〇をやるよ」 ⇒ 子どもの思考の流れを持ち出してくる
 - ・ 全ての子どもがやっていることには意味がある ⇒ その子どもの思考を言葉にする ⇒ みんなで共有する

10 教師自身が授業での探究を楽しむ (p 12～)

- 伊那小6年田中孝弘教諭の実践「レーズン酵母を育てて焼いたパンを食べたいな」から
 - ・ まず教師が試行錯誤しながら酵母づくりを行ったり、県内あちこちのパン屋に出かけて天然酵母のパンづくりを見てきたりしている
 - ・ 主体的な探究学習は、子どもと教師双方の探究プロセスの合作 ⇒ 教師が楽しんでいないと成り立たない(教科でも同じ)
- 「総合」のような学習で培うもの
 - ・ 目標そのものを絶えず創り出していく(人生と似ている)
 - ・ いくつもの時間で生きること(いくつもの生き方を一つの授業でやっていく)
 - ・ 自分で考え実践したことを物語る
 - ・ 他者と共有できる世界を作り出す

11 話し合える仲間 — 教師は一人では育たない — (p 15～)

- 教師は専門職である(専門職 = 経験から学ぶ人、省察的实践者)
 - ・ 実践を語り合いながら、自己の実践や経験の意味を再構成
- 教師は一人では育たない
 - ・ 学び合うコミュニティ、チーム学校における校内研修の重要性
 - ・ 実践 ⇒ 対話 ⇒ 省察 の繰り返し

12 おわりに (p 16～)

- 「体重を減らす」ために必要な5つのこと … 「学習観の転換」においても重要

【ご協議いただきたいこと】

- 松木先生のご講演から感じられたこと
- これから岡谷市の小中学校の各教室で行われる授業に期待すること